KOKU-FAN
$3.50
june 1979
航空ファン
6
★特集★
●カラー迫力取材
ニューメキシコ上空のイーグル
●F-15同乗取材ルポ
これがドッグ・ファイトだ
●日・米合同戦技訓練
三沢に飛来したイーグル

FLIGHT IMPRESSION REPORT ABOARD F-15 EAGLE

ニューメキシコ上空のイーグル

撮影・武田正彦（本誌）

スーペリオリティー（制空）ファイターの名にふさわしい高性能機マクダネルダグラスF-15イーグル，米空軍の誇る重量級戦闘機は想像をはるかに越えた軽快ぶりを、カメラの前に惜しげなくさらけだした。

同乗機パイロット MAJ. LAUHER SUNDANCE
僚　機パイロット CAPT. BUZZ MOSELEY
僚　機パイロット LT.COL. CLARK TIP

The name of "Superiority Fighter" speaks of itself. McDonnell Douglas F-15 "Eagle" demonstrated incredible maneuverability before my camera lens. Pilots flown together were Lt. Col. C. Tip, Maj. L. Sundance, and Capt. B. Moseley. (Photo by Masahiko Takeda)

HO
AF 76 095
HO
097
HO

イーグルに同乗を許され，しかも本格的なドッグファイト（格闘戦）を体験できるのは，民間人としては君が最初だろうと言われて，その高性能をうらんだ。しかしHOのテールコードを誇らしげに書いたF－15は，マニアの好みにあうような様々なアングルを，次々に展開してくれた。胴体下の大型増槽は，JP－4ジェット燃料610USgalを収容できる。左頁上の機体右はAIM－9Lサイドワインダー・ミサイルを携行している。

"Probably you are the first civilian ever participated in dogfight maneuver onboard F-15", said the pilot. Sure enough the flight was tough one, but had excellent shooting angles HO tail-marked Eagles with my camera. An auxiliary tank underneath the fuselage carrys 610 US gal. of JP-4 fuel. Upper left page shows AIM-9L Sidewinder missiles.

ティップの操縦するイーグル。尾翼のマークは米空軍戦術空軍のエンブレム、エアインテーク横は第49戦術戦闘航空団のエンブレム。ゴーアラウンド直後のため主脚トビラが開いている。

Tail bears TAC emblem, while that of 49th Tactical Air Wing is seen on the side of air-intake. The aircraft was commanded by Lt. Col. Clark Tip.

Eagle glitters in the deep-blue sky above 40,000 ft.

⬆40,000フィートの高空では空は暗く不気味だ。イーグルだけが光を受けている➡B型後席の計器板にあるVSDスコープに表われた敵機（F－15A）の様子。同乗機の対地速度610kt、対気真速度607kt。目標の高度15,700ft、速度600kt、1Gにて飛行中。レーダーレンジ10マイルを表示中である⬇タイトなフォーメーションを組むティップとバズのイーグル

VSD scope on F-15B's rear seat caught the target (F-15A), at ground speed of 610 kt, TAS 607 kt. The target's altitude read as 15,700 ft, speed as 600 kt, and rader range as 10 miles.

Tight formation held by Lt. Col. Tip and Capt. "Buzz" Moseley.

日・米合同戦技訓練に飛来したF-15イーグル

撮影・井上哲雄

Four F-15s from the 1st TFW, Langley AFB, participated in the allied combat training with JASDF. Their Japanese counterparts were F-86s, F-104s, F-4s, and F-1s. (Photo by Tetsuo Inoue)

去る3月19日から21日までの3日間，三沢基地において，米空軍のF-15と航空自衛隊のF-86，F-104，F-4，F-1による，日米合同の戦技訓練が行なわれた。写真はラングレイの米空軍第1戦術航空団（1st TFW）所属のF-15Aイーグル。

F-15 "EAGLE" JOINS "DUCT-3" EXCERCISE

フライトラインに並ぶF-15A。今回飛来したのはラングレイ基地にいる1st TFW所属の4機で，さきに行なわれた米・韓合同演習チームスピリット'79の帰りに立ち寄ったものである。

訓練を終え，胴体上部のエアブレーキを開いて着陸するF-15A。

フライトラインに並ぶF-15A。胴体中央下面には600ガロン入り増槽を装備している。

愛機F-15に搭乗する1stTFWのパイロット。

The 1st TFW's F-15As after completion of their mission with "Team Spirit '79", an annual training with Korean Armed Forces, visits Misawa on its way back to Langley AFB.

CF-101F "Voodoo" of the 416th Sqd., Canadian Armed Forces.

カナダ国防軍の翼

◀カナダ国防軍第416スコードロン所属のCF-101Fブードゥー

▼コールドレーク基地にある、第419戦術戦闘訓練飛行隊（419のTFTS）所属のCF-5B。同機は射撃訓練時の標的曳航機として使用されており、主翼下面にはダーツ射撃用のターゲットを装備している。

WINGS OF CAF

CF-5B of the 419th TFTS at Cold Lake AFB. Note that the dart-target carried under wing.

◀カナダ国防軍の長距離海洋監視・対潜哨戒機ロッキードCP-140オーロラ第1号機。同機は現在テスト飛行が続けられており、1980年5月カナダ国防軍に引き渡される。
The 1st Lockheed CP-140 "Aurora" undergoing various tests which will be delivered to Canadian Armed Forces in May, 1980

▲第404スコードロン所属のCL-28アーガス対潜哨戒機。カナダでは現在同機を26機装備している。
One of the twenty-six CL-28s "Argus" currently deployed by the Canadian Armed Forces.

ボールトン・ポールP.111

P.111は単座席の高速研究機としてイギリスで開発されたデルタ翼機で、ロールス・ロイスのターボジェットエンジンを装備、1950年10月10日にボスコム・ダウンで初飛行を行なった。写真は現在カベントリイにある航空博物館に展示されているP.111。(P51ジェット戦闘機の先駆たち参照)

BOULTON PAUL P.111

P.111 equipped with Rolls Royce turbojet made its maiden flight in Oct., 1950.

新田原基地のF104栄光

撮影・小野　進（本誌

新田原基地のフライトラインに並ぶ，航空自衛隊第5航空団第202飛行隊のF-104J栄光とF-104DJ（手前から3機目）。

JASDF F-104Js "EIKO"(Glory) and F-104DJ (the 3rd from foreground), from the 202nd Sqd. of 5th Air Wing lines up at Nyutabaru AFB. (Photo by Susumu Ono)

JASDF F-104J, from the 204th Sqd., takes off from Nyutabaru AFB for training mission.

After completion of training mission the 204th Sqd. F-104J lands at Nyutabaru

F-104 "EIKOH" AT NYUTABARU

△訓練に向け新田原基地を離陸する第204飛行隊所属のF-104J。◁ドラッグシュートを引いて着陸した，第204飛行隊所属のF-104J。▽エプロンで翼を休める第202飛行隊のF-104J。垂直尾翼のマークはギリシャ文字のV(5)を図案化したものである。

JASDF F-104Js of the 202nd Sqd. at flight line. The tail-mark symbolizes Greek numeric of V.

UNZE SANGYO
グンゼ産業
ビークラフト部
千代田区神田錦町3-17
TEL294-4141代
好評発売中
翔んで出た!!
Mr.スプレーカラー"ジュニア"
全45色勢ぞろい。
新型ノズル付、光沢アップ
100cc入りで300円!!
■新型極細2段絞りノズル使用。
●噴霧がぐーんとこまかくなりました。
●ムラがなく、きれいに塗れます。
■純度を増した光沢。
●光沢色は、塗料の品質改良によって、光沢が抜群に良くなりました。
■塗り面積は0.9㎡（2回塗り）と大きな面積。
■便利なジュニアタイプ
●小さいモデルのスプレー塗装に。
●ジュニアモデラーにも使いこなせます。
■何色もそろえるには経済的。
★大きいモデルの塗装には、普通タイプのMr.スプレーカラー（全45色：￥450）をどうぞ。

ソ連軍用機カラーアルバム

COLOR ALBUM OF RUSSIAN WARPLANES

MiG-23U "Flogger C", the training version of MiG-23 figther/attacker.

(TASS)

Myasishchev 201M "Bison C" taken prior to night mission.

▲ドラッグシュートを開いて着陸したソ連空軍の可変翼戦闘・攻撃機ミグ-23"フロッガー"の複座練習機ミグ23U"フロッガーC"。ソ連の発表したものとしては非常に鮮明で、全面グレーに塗装された機体などがよくわかる。写真は戦闘訓練部隊に配備されているもの。

◀夜間飛行を前にしたミヤシチョフ201M"バイソンC"偵察機とその乗員たち。爆撃機型のM"バイソン"から発達したもので、機首レドーム後方にはガラス張りの監視席が増設されている。

新田原（にゅうたばる）基地のF-104部隊

627
684

宮崎県の新田原基地にある第5航空団には、現在F-104を装備する第202、204の2個飛行隊が所属している。第202飛行隊はF-104Jによる最初の実戦部隊として、昭和39年3月31日に編成された。また、第204飛行隊は、それまで、F-104最初の部隊である第201飛行隊が行なっていた、F-104Jパイロットの転換訓練を引き継ぐ部隊として昭和39年12月1日に編成され、任務として防空と訓練を行なっている。尾翼のマークは黄に赤のシャドーが第202、青に黄のシャドーが第204飛行隊である。

F-104s shown here are those of the 202nd and 204th Squadrons stationed at the Nyutabaru AB, Miyazaki Prefecture. The 202 Sqdn., with its F-104J, was inaugurated on March 31st, 1964, as the first F-104J combat unit, while the 204 Sqdn., organized on December 1st, 1964, took over the pilots' transitional training from its predecessor, the 201 Sqdn.

[上]ドラッグシュートを開いて着陸した、第200飛行隊所属のF-104DJ。ドラッグシュートの直径は5.4mある。また、左主翼下面に見える爆弾型のものは、空対空ミサイル・ロケット弾射撃訓練用のDF-6MFCターゲット。
[中]訓練を終えて着陸した第202飛行隊所属のF-104J。主翼下面ランチャーには、JLAU-3／Aロケットランチャーを装備している。これには70㎜ロケット弾19発が収容できる。
Yellow lettering with red shadow on its horizontal tail shows that the plane is from the 202 Squadron, and for the 204 Squadron the marking is painted in blue with yellow shadow. Bomb-like target DF-6MFC is seen carried under the wing of landing F-104DJ.

▷第202飛行隊で連絡用などに使用されているT-33A練習機。
▽第202飛行隊のフライトラインに勢ぞろいしたF-104JとF-104DJ(手前から3機目)。
◁LAU-3/A Rocket launcher is seen under wing.
19 70mm rockets are carried.
▷T-33A trainer shown is currently used as liaison plane by the 202 Squadron.
▽The flight-line of 202 Squadron includes F-104s and F-104DJ (the third from foreground).

三沢基地に飛来した

ラングレイ基地の"イーグル"

去る3月19日～21日まで、青森県三沢基地にラングレイ基地の第1戦術戦闘連隊(1stTFW)所属のF-15A"イーグル"4機が飛来し、航空自衛隊機との空対空戦技訓練を行なった。このF-15Aは先ごろ行なわれた米・韓合同演習"チームスピリット'79"に参加した帰りに立ち寄ったもので、自衛隊からは三沢基地の第3航空団からF-86F(第6飛行隊)、F-1(第3飛行隊)、千歳基地の第2航空団からはF-104J(第203飛行隊)、F-4EJ(第302飛行隊)が参加した。

On their way back from the "Team Sprit '79" excercise conducted in Korea, four F-15As from the 1st TFW based at Langley AFB, visited Misawa AB, Aomori Prefecture During their stay from March 19th to 21st, the Eagles flew air-to-air combat excercise with F-86Fs and F-1s of the 3rd Air Wing as well as F-104Js and F-4EJs of the 2nd Air Wing, Japan Air Self Defense Force

ACM訓練を終えて、胴体上部のエアブレーキを開いて着陸するF-15A。胴体下面中央に装備しているのは600ガロン増槽。
今回の日米合同訓練は“ダクト-3”と呼ばれるもので、米海軍のA-4スカイホークとの戦技訓練、昨年行なわれた米空軍F-4ファントムとの合同演習に次ぐ第3回目の訓練である。
F-15A with 600 gal auxiliary tank lands at Misawa runway after the completion of combat training, code named as "Duct-3", held with their JASDF counterparts. The similar combat excercises have been flown in past by JASDF with participation of USN A-4s and F-4s.

1954年６月22日，エドワーズ空軍基地で初飛行したスカイホーク第１号機XA4D-1．海軍への実戦配備用１号機は1956年に引渡された。

On June 22nd, 1954, the first Skyhawk XA4D-1 made its debut at Edwards AFB. USN received its first model in 1956.

生産を終えたA-4"スカイホーク"

胴体側面に使用国の国旗を描いた最終号機

The last Skyhawk with international flag marking on the side.

去る2月27日、マクダネル・ダグラス社はA-4スカイホークの最後の注文機を引渡した。これによりアメリカの戦闘機生産史上、最も長期間生産が続いた同機の製造が終ることになる。この最終号機は同社が製造した2,960機目の機体でノースカロライナ州チェリーポイント基地の第331海兵隊攻撃飛行隊(VMA-331)に引渡される。これまで製造したA-4のモデルは全部で17種類でそれらは、A-4A、B、C、E、F、G、H、K、M、N、KU、TA-4F、G、H、J、K、KUである。2,960機の内訳は、攻撃爆撃機が2,405機、練習機が555機で空母搭載、訓練、海軍と海兵隊の兵器戦闘用のほか、オーストラリア、ニュージーランドなどの諸外国でも使用されている。

On February 27th, 1979, the very last A-4 "Skyhawk" was divered to VMA-331 USMC based at Cherrypoint, North Carolina. With the delivery of 2,960th Skyhawk the McDonnel Douglas closed the longest sustained production-line ever held by fighters in the history of US Aviation. A series of A-4 models have been consisted from 17 variations under A-4A, B, C, E, F, G, H, K, M, N, KU, TA-4F, G, H, J, K, KU. Of 2,960 A-4s 2,405 of them were attacker/bomber, and 555 were trainers. Mostly used by USN and USMC, with some exported to Australia, New Zealand and elsewhere.

海軍のデモンストレーションチーム"ブルーエンジェルス"の使用しているA-4。
A-4 "Skyhawk" flown by the famous "Blue Angeles" of USN.

主翼下パイロンに装備したロケット弾ポッドから、ロケット弾を発射した海兵第324攻撃飛行隊(VMA-324)所属のA-4M
VMA-324's A-4M fires rocket from the pod mounted under wing

A-4スカイホークの乗員訓練部隊、第125攻撃飛行隊(VA-125)で使用していたA-4A、A-4B、TA-4F。
A-4A, A-4B, and TA-4F from the VA-125 currently flown by trainee pilots

編隊飛行するVMA-223所属のA-4M。
A beautiful formation flown by A-4Ms of VMA-223, USMC.

脚を下げて空母飛行甲板上をウェーブ・オフする練習型TA-4F。
TA-4F waves off over the flight deck.

ニュージーランド空軍が使用している複座練習型TA-4Kスカイホーク
TA-4K, the two-seater Skyhawk trainer flown by New Zealand Air Force.

"顔"

優秀作品

撮影：浜野博司（西宮市　会社員　37才）
アサヒペンタックスSP、ソリゴール400mm、F8、ネオパンF（ASA64に増感）、F8、1/250秒、大阪空港

このコーナーでは、読者の皆さんが撮影された航空機（軍用・民間機など）を題材とした写真を募集しています。作品は未発表のものでキャビネ版以上六ツ切まで。裏に題名、住所、氏名、年齢、職業、撮影データを明記してお送り下さい。しめ切りは毎月末日です。入選作品は本誌に掲載し、その中で優秀作品には賞品を、その他の入選者には記念品を進呈いたします。

“エンジンスタート”

撮影：大庭丈志（静岡県　自衛官19才）アサヒペンタックスSPF，タクマー200㎜F 4、トライX、F 8、1/500秒、Y 2フィルター使用、浜松基地。

スナップだより
SNAPSHOTS FROM READERS

撮影：市原康史

⬆3月中旬、岐阜基地で撮影した実験航空団所属のT-2特別仕様機。左主翼下面に国産の対艦ミサイルXASM-1-Bを装備している。

EAW's special version of T-2 with Japanese-made XASM-1-B missile.

HC-130N on way to join "Team Spirit '79" excercise held in Korea.

⬇3月上旬横田基地で撮影したHC-130N。同機は米韓合同演習"チームスピリット'79"参加のため、アラスカのエルメンドルフ基地から韓国に向う途中立ち寄ったもの。

撮影：鈴木義弘

撮影：市原康史

↑3月下旬岐阜基地で撮影したT-2特別仕様機。胴体中央下面には220ガロン増槽を、そして左主翼パイロンにはSU-21ディスペンサーを装備している。

JASDF's modified T-2 with 220 gal. auxiliary tank and SU-21 dispenser.

TAC EC-130E with additional antennas taken at Yokota AFB in Japan.

→横田基地に着陸する米戦術航空軍団（TAC）所属のEC-130E。主翼下面や胴体上・下面に多数のアンテナが増設されている。

撮影：古川計夫

↓3月中旬PS-1の第22号機が完成し、海上自衛隊31航空隊に引き渡された

In middle of March, the 22nd PS-1 delivered to JMSDF's Air Unit.

撮影：永江　寧

⬆アエロフロートで使用している、チェコスロバキア製LET L-410Mターボレット双発旅客機。同機は東欧圏諸国への輸出用モデルで、乗客は15名、巡航速度365kmで航続距離は1,200kmである。

⬇夜間訓練を行なうソ連のミサイル部隊。

➡飛行訓練を終えた、ソ連のトランスバイカル軍管区に配備されている、ミグ-27"フロッガーD"とそのパイロット。ミグ-27はミグ-23S"フロッガーB"の発達型で対地攻撃機。固定武器として23mmのガトリング砲を持つほか、胴体下面に3ヵ所、主翼固定翼部下面に左右1ヵ所の武装用ハードポイントがある。

⬆LET L-410M Turbolet manufactured in Czechoslovakia carrys 15 passengers with cruising speed of 365kmh and range of 1,200 km.

⬇Russian missile unit conducts night excercise.

➡MiG-27 "Flogger D", assigned to Transbikal Military District, returns after the completion of training mission. MiG-27 is advanced version of MiG-23 "Flogger B" and armed with 23mm Gatling guns. Besides, three hard points are mounted underneath the fuselage while another one under wing.

⬆米アラバマ州フォートラッカーにおけるヒューズ・エアクラフト社軽量ロケット発射装置のテストで、陸軍のAH-1コブラから発射された2発の2.75インチのロケット弾。これは新型の7管モデルから発射されたもので、写真で胴体側面に装備されている細い方がその発射装置。

U. S. Army's AH-1 "Cobra" fires 2.75-inch rockets during the test of launchers developed by Hughes Aircraft.

PHOTO NEWS

⬆ブリティッシュ・エアロスペース社は、このほどＨＳ-125型ビジネスジェット機（写真）用のサービスセンターをアメリカに設定した。同センターは北アメリカで12番目のサービスセンターになる。ＨＳ-125はアメリカで200機以上販売されており、これは28ヵ国で使用されている総数400数機の半数以上である。

➡スイス航空がこのほど発注したエアバスＡ310型の完成予想図。スイス航空は10機を確定発注、1983年から欧州と地中海地域に就航させる。

⬆ HS-125 Business-jet by British Aerospace who recently inaugurated its 12th Service Center in the United States.

➡Artist's image of Airbuss A310 ordered recently by Swiss Air. The airlines will be equipped with 10 A310s beginning 1983.

⬅着々と開発の進められてい る。ボーイング767のモック アップの翼部と胴体の組立 が、同社エバレット工場で なわれた。アルミニウムと 板から作られたこの翼は、 型とはいえ、前縁スラット 備えているほかエンジン・ トラット、後縁フラップ、 陸装置の取付けが可能である

Boeing 767 mockup in its assembly process.

A fleet of B-17s over the skyscrapers in New York city.

太平洋戦前夜の米陸軍航空隊機

THE "FROM HERE TO ETERNITY" DAYS OF U.S ARMY AIR CORPS

(Photo & Captions by C.M.Daniels)

▲ニューヨークの摩天楼を下に見て，爆音高く編隊飛行をするボーイングB－17"空飛ぶ要塞"の雄姿。第二次大戦中盤で文字どおり"花形"として活躍した。▼当初生産されたボーイングY1B－17,13機のなかの1機。きれいにそろえられたハミルトン・スタンダード・プロペラが印象的だ。

One of the original 13 Boeing Y1B-17 Flying Fortresses, No. 80, at Chanute. Note the perfectly aligned Hamilton Standard propellers.

Martin B-26, the original short winged version which carried the sobering sobriquet, the Widow Maker. The Marauder got into the combat arenas of the early war, at Midway as a torpedo bomber and in New Guinea as a tactical bomber.

太平洋戦争を機に新鋭機が続出し、米陸軍航空隊の容貌を一変させた。そうした新鋭機のなかでもとくに期待を集めたのがマーチンB-26爆撃機。写真は珍しい原型どおりの短翼型で"ウィドウ・メーカー"―未亡人生産機―の異名があった。同機は、太平洋戦争初期のミッドウエイ前線で雷撃機、ニューギニア方面では戦術爆撃機として、まさに"マロウダー"（略奪者）のニックネームにふさわしい暴れん坊ぶりを発揮し、勇名を馳せた。

Rear view of another Y1B-17, No.41, visited Chanute.

イリノイ州のシャヌート基地訪問中のＹ１Ｂ－17、41号機。この機体もオリジナル13機のうちの１機である。

大編隊を組んで出撃する米陸軍航空隊の爆撃隊。写真の左側に見える編隊はＢ－18、右側はＢ－17の編隊。

Fleets of B-18s (left) and B-17s (right) enroute to the strategic targets.

ジェット軍用機の先輩たち

BOULTON PAUL P.111 ボールトン・ポールP.111

P.111A experimental jet devlaped by Boulton Paul in late 1940s.

イギリス編 29

P.111はボールトン・ポールが1940年代末期に製作したデルタ翼の高速実験機で、P.111とP.111Aが1機ずつと、水平尾翼付きのP.120の合計3機が作られた。本機を生んだボールトン・ポール社は1915年以来、航空機の製作に当たっている古いメーカーで、1934年に同社の航空機部門がボールトン・ポール航空機として独立。その代表作には第二次大戦中のデファイアント複座戦闘機が有名である。ここに取上げたP.111はボールトン・ポールが手がけた最初のジェット機で、R.R.ニーン・エンジンを装備した胴体にデルタ翼を中翼配置に取付けており、1号機は1950年10月10日にボスコムダウンにおいて初飛行した。アメリカで言えばコンベアXF-92に相当するデルタ翼実験機で、エアブレーキを装備するなど細部に若干の変更が見られる2号機はP.111Aとして1953年7月2日に初飛行した。このページの2枚はいずれもP.111Aである。

P.111A made its maiden flight on July 2nd, 1953.

P.111Aデルタ翼高速実験機（VT935）P.111AはP.111に遅れること約3年，1953年7月2日に進空した第2号機で，胴体にはスピードブレーキが新設されるなど若干の改修が行なわれている。下はP.111Aのタキシング中の姿で，尾部下面にはテイル・バンパーが取付けられているのがわかる。本体は全長10ｍ余の小型ながら，トレッドは4.4ｍと異例に広い

For 10m-length P.111A has rather wide tread of 4.4m.

P.111Aの側面形。尾部のフェアリングはドラッグシュートの収容部で、左側だけにある。直径の大きな遠心式RRニーンをエンジンとするため胴体は太くて短く、スマートとは言えない反面、鋭く尖った垂直尾翼や薄いデルタ翼は同時代のコンベアXF-92を連想させるシャープさがある。本機は開発後間もない射出座席を装備しており、キャノピー下の赤い警告マークがそれを示している。

Note the tail bumper and fairing contains a dragshute.

To get the best performance out of limited thrust a fine craftmanship witnessed on its surface finishing.

By angles it gives completely different impressions.

P.111A takes off for the flight test.

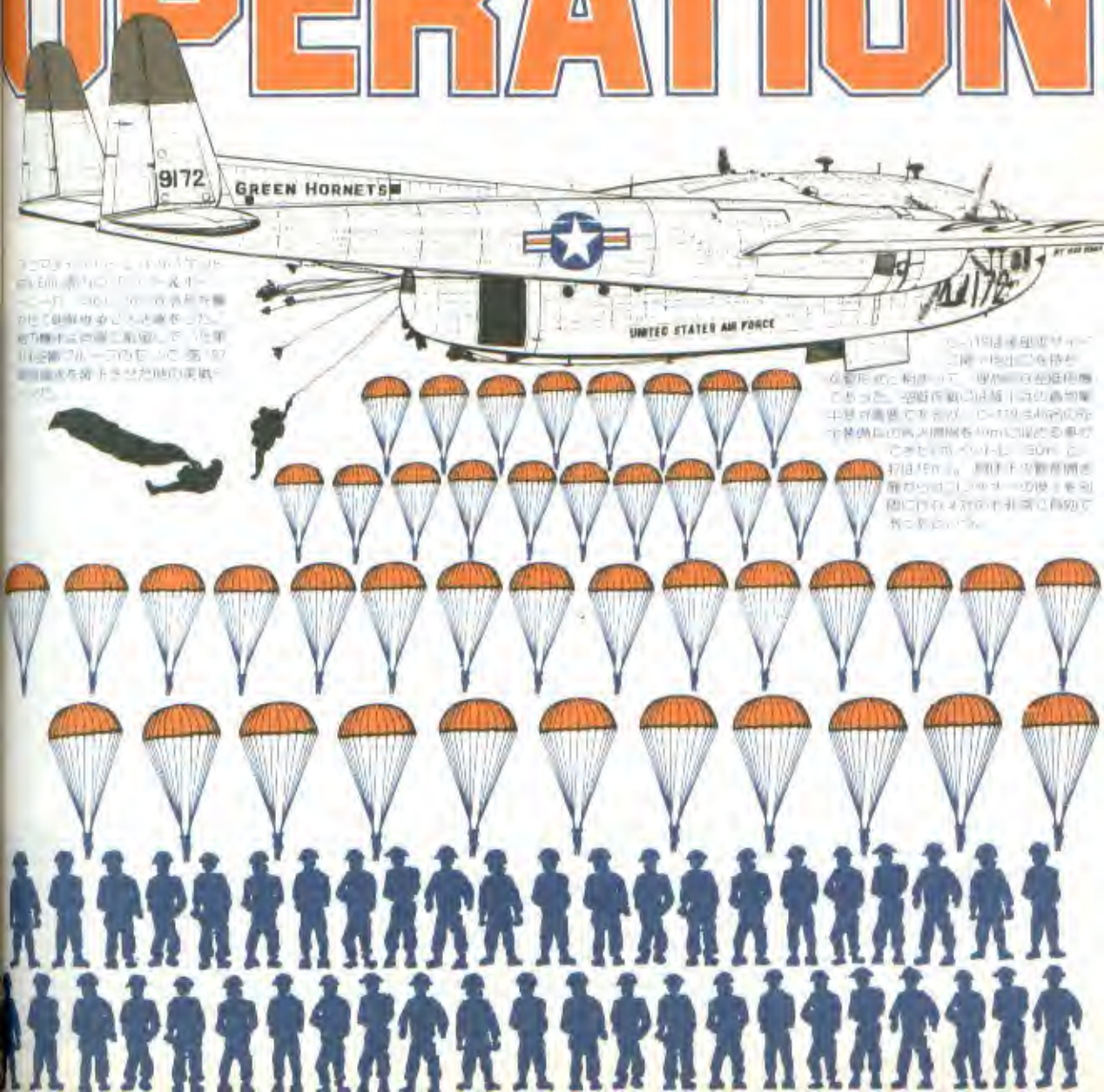
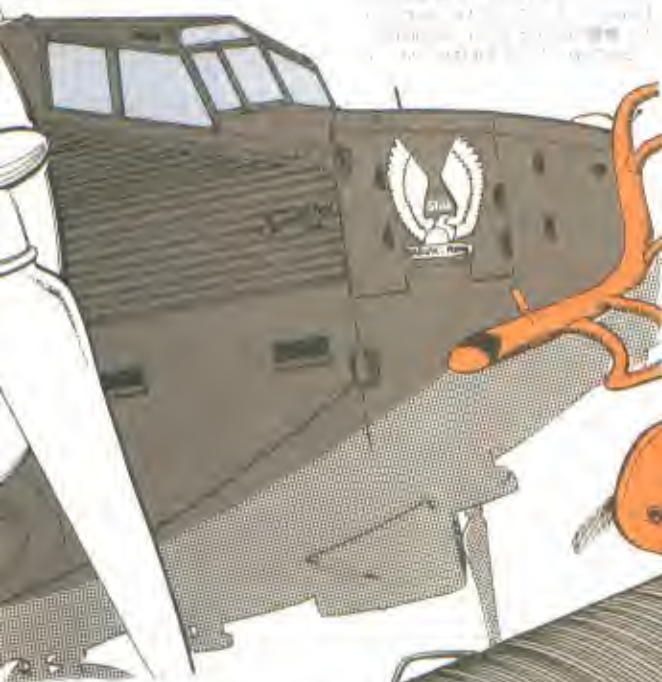
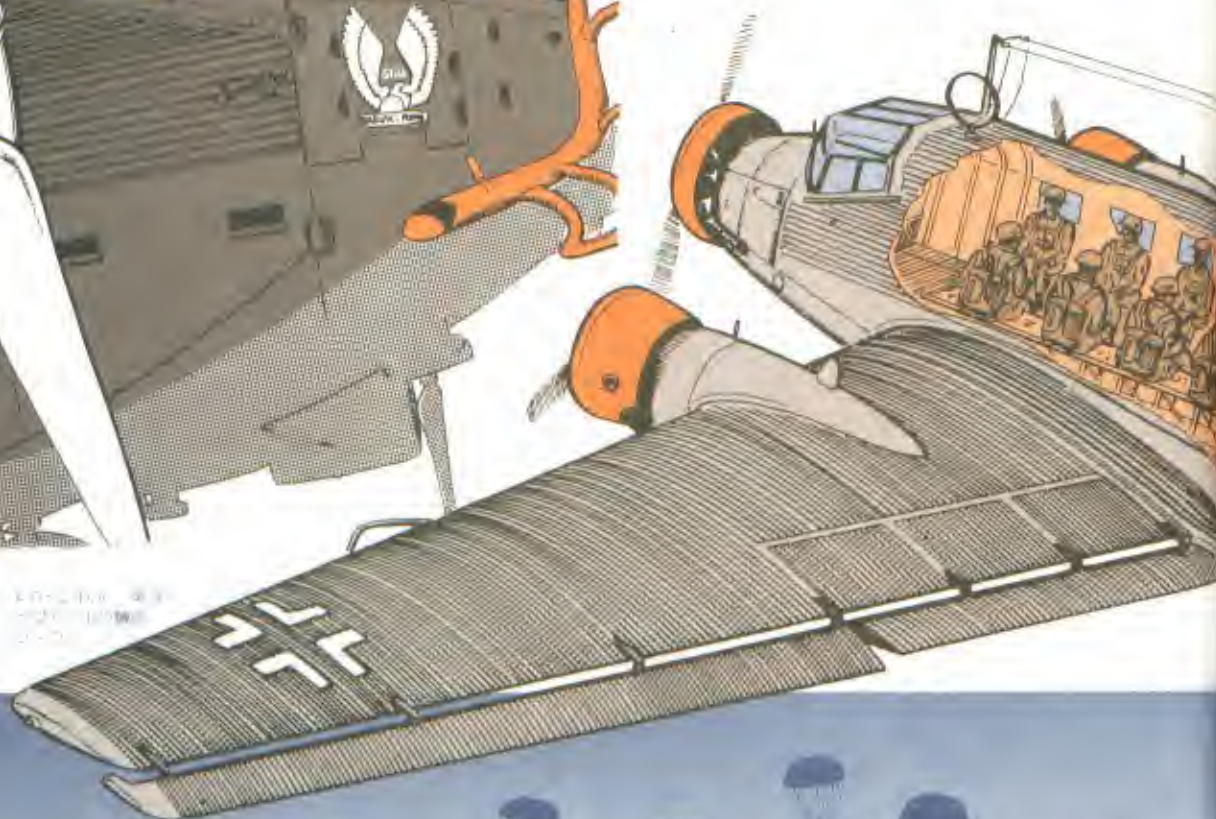
Boulton Paul famed for its night-fighter "Defiant" flies P.111A.

左の2枚は右斜め後方，および右側面から撮影したもので，見る角度によって印象が異なるから面白い。機首に黄色で描かれた大Pは試作機を意味している。当時の限られたエンジンの推力から得られる性能を最大限に発揮させるため機体の表面仕上げには細心の注意が払われており，写真でもそれがうかがえる

上2枚は試験飛行に離陸するP.111Aと，青・白・赤3色のラウンデルとフィン・フラッシュも鮮やかな飛行中の姿。ボールトン・ポールではP.111に続くデルタ翼研究機として，全遊動式水平尾翼を持つP.120を製作したが，この機体は1952年8月，飛行中にフラッターを発生，墜落して失われてしまった。

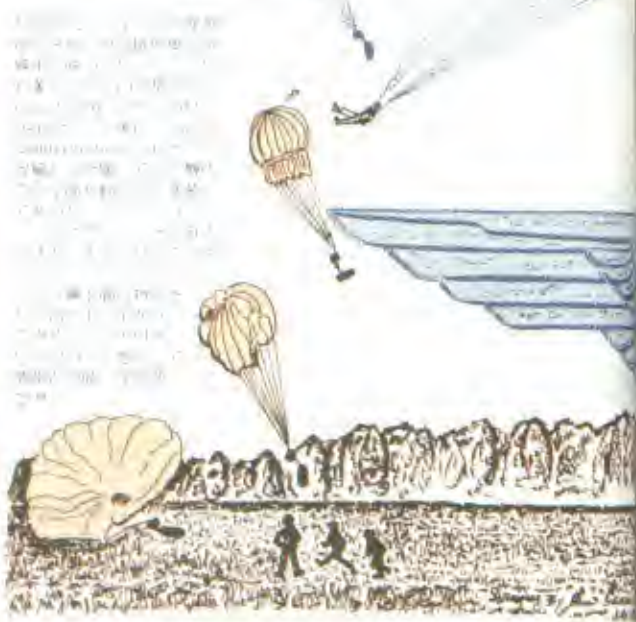
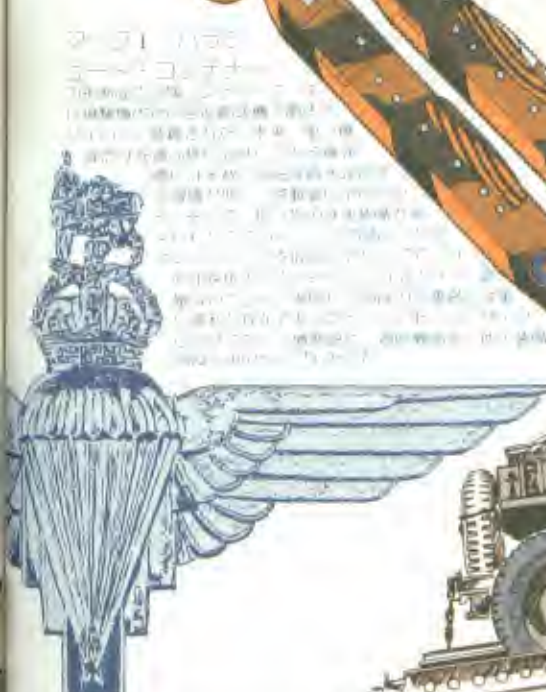
Capital "P" on its nose painted in yellow stands for prototype.

イラストと文　大沢　郁甫

AIRBORNE OPERATION

Ju52/3mは電撃作戦の主役の一人を演じた、たくましいオバハン(タンテ)だった

25m
40m
T AB

ゴータGo242が後の空挺用機に与えた影響は多大だ
DIE GOTHAS

ノラトラやパケットの源流はGo242なのだ
45°
NARVIK

ドイツのマネをして、すぐやった
イギリスの空挺もスゴかった

マークⅠ パラシュート・コンテナー

AIRBORNE
TROOP CARRIER
C-47はWWII
アメリカ軍の
最主要兵器だった
UNITED STATES NAVY
NARF
39085
L4

強力！双発艦上戦闘機

F7Fタイガーキャット

GRUMMAN F7F TIGERCAT

エンジンナセルに手書きによる大きな番号を付けテスト飛行中の、グラマンF7F-3タイガーキャット。-3型の試作機と思われるが、機首にはまだ機銃が装備されていない。

Grumman F7F-3 "Tigercat", presumably unarmed prototype with clear marking on nose.

Grumman F7F-3 armed with four 12.7mm guns. Normally four more 20mm guns are carried.

▲▼パイロットが搭乗し、飛行準備中のＦ７Ｆ-3。両エンジン横では、エンジン始動に備え整備員が消火器をかまえている。Ｆ７Ｆの固定武装は機首に12.7mm機銃４門、主翼付根部に20mm機銃を左右各２門装備していたが、写真の機体は試験機と思われ、機首の機銃のみ装備している。

▼主翼を折りたたんだF7F-3。タイガーキャットは艦載機として設計されたが、機体重量と寸法が艦載機の限界であったため、シリーズ最終型であるF7F-4Nだけが実際に空母に搭載された。翼幅は15.7m、写真のように折りたたむと9.8mであった。

Although intended for the carrier useage F7F-3's weight and size had been too close to the limit. Only the final version of F7F-4Ns were actually adapted to the carrier.

エプロンをタキシーアウトするF7F-3タイガーキャットと、パイロットが搭乗して飛行準備中のF7F-3（手前）。同機は全面グロスシーブルー塗装が基本であった。手前の機体では、主翼上面のウォークウェイやオイル冷却器の空気出口などの細部がよくわかる。

Taxiing F7F-3 and another one in preparation. Details of walkway, oil cooler, and air exhaust are clearly visible.

カーチス P-40 ウォーホーク
CURTISS P-40 WARHAWK

⬆カーチスP-40ウォーホーク。この戦闘機は、第二次大戦の初期において、アメリカ軍がもっとも多量に前線に投入した機体であった。写真は戦後レース用に復元された機体で、迷彩塗装や機首のサメロも塗っている。また後方にはムスタング、アベンジャー、ヘルダイバーなども見える。

⬅これも戦後民間人の手により復元されたP-40ウォーホーク。4翅プロペラを使用し、キャノピー上部も改造されている。塗装は中国戦線で活躍したフライング・タイガー部隊のものが施されている。1987年8月のミルウォーキー航空ショーで撮影。

➡復元されたP-40。イギリス空軍の塗装が施されているが、同空軍で使用されたP-40はキティーホークの名称が付けられていたが、フランス空軍が購入予定した機体までイギリスが引受けたので、その数は多く、英本土、北アフリカ、中国戦線で活躍した。

➡第二次大戦中に撮影されたP-40N。残念ながら所属部隊は不明だが、機首に描かれたサメロとニックネームがよくわかる。

Curtiss P-40 "Warhawk" now participates in the peaceful Air Show. Planes made its debut in the early stage of WWII and fought brilliantly.

Curtiss P-40N photographed during the WWII.

カーチス P-40 キティーホークのコックピット

Curtiss P-40 Kitty hawk Cockpit Interior

このページと次ページは、カナダのノースオタワのロックリッフ基地にある、カナダ国立航空博物館に展示されている　復元されたカーチス・キティーホークのコックピット。この機体は132(F)中隊が使用していた機体で、写真のように2、3のメーターは外されているがかなり正確に復元されており、細部の塗装などもよくわかる。

Curtis Kittyhawk with 132(F) marking, displayed at the Canadian National Aero Museum in North Ottawa, has its cockpit renovated almost completely.

LTV A-7E CORSAIR II

LTV A-7E コルセアIIのマーキング

グンゼ産業Mr.カラー
配合ガイド

空母コーラルシー搭載
VA-22所属
空母飛行団司令官機

アメリカ建国200年記念の塗装を施した、アラメダ海軍航空基地の第303攻撃飛行隊（VA-303）所属のA-7Bコルセア II。1976年8月の撮影。

A-7B Corsair II with Bicentennial paint scheme, belongs to VA-303, taken at Alameda NAS in August, 1976.

A-7Es from VA-27 and VA-97 onboard the "Enterprise".
The 5th A-6E the 5th from foreground belongs to VA-196.
Taken in April, 1978.

空母エンタープライズの飛行甲板に並ぶ、第27攻撃飛行隊（VA-27）とVA-97所属のA-7E。手前から5機目はVA-196所属のA-6E。1978年4月の撮影

空母エンタープライズ上のA-7E。手前の機体はVA-97所属機，他はVA-27所属機。1978年4月の撮影。

A-7Es of VA-27 and VA-97 (foreground) onboard the "Enterprise".

Biplane Nakajima Type 90s line up on the flight deck of Carrier "Kaga".

●昭和12年5月11日

空母・加賀の航空戦技

空母・加賀から飛び立つ中島海軍90式艦上戦闘機。日本海軍最後の複葉戦闘機となったが、90式で本格的に洋上飛行、陸地の見えない海洋での訓練では、当時としては大変に困難な操縦法のトレーニングであった。パイロットたちは後日上海渡洋攻撃などを行ない、その後真珠湾攻撃の主力を生みだす事になった。当時の複葉機は横風に弱いので、発艦時には風の流れを知らせるために発煙筒をたいて風向きを知らせた

Final model of Japanese Navy biplane, Nakajima Type 90, seen taking off from the deck of "Kaga". In those days a smoke ball was used to indicate wind direction since a biplane had been sensitive against crosswind. Hard carrier operation and navigation training enabled pilots to conduct Pearl Harbour attack in the days to come.

空母加賀と私

堀　元美

航空母艦加賀はもともと戦艦として起工されたのだが、1922年の軍縮条約によって航空母艦に変更して、1928年に一応完成した。その頃は各国とも航空母艦から飛行機を活動させる方法が十分に発達していなかったので、実際に使って見た経験から大改装を施すものが多かった。

加賀も最初に出来上ったままでは不便な点が多かったので、1934～35年に改装工事を行って、排水量4万2,500トンという、その頃としては世界最大級の空母となった。

1937年には加賀は連合艦隊中最強の空母として、日本海軍航空兵力の中心だった。航空母艦はどういう性能や、装備をもっていればよいのかという問題は、その頃まではなかば手探り的に、研究されていたのだが、ようやく自信をもって優れた航空母艦を設計することができるようになり、本格的航空母艦の最初のものとして、はじめての蒼龍が呉海軍工廠で建造されていた。

私は、大学を出てまだ3年目の若い海軍造船中尉で、艤装工場の蒼龍工事担当官として、半ば実習、半ば本務という役で毎日艦内を駆けまわっていたが、役目としては艦の船体関係の装備品を取付け、いわば「ふね」としての設備を造り上げる工事のほかに、航空廠が主務である飛行機発着のための諸装置や、飛行機、部品、兵器などの搭載に関係のある設備の工事をも取りまとめて行くのだった。骨も折れるが面白い仕事の毎日だった。

空母・加賀の飛行甲板をぎっしりとうめる搭載機たち。エンジン始動の合図によりいっせいにエンジンをまわす。

そういう仕事のためには実際に艦隊の戦技を見て、母艦上での航空機の活動状況を知っていなければならない。

戦技というのはいわば艦隊訓練の学期試験みたいなもので、砲術でも、水雷でも、その他あらゆる兵科が毎年2回ぐらい、すべての兵器や機関を実際にフルに活動させて、戦闘の技術を確認する作業である。

ここに掲げた数枚の写真は、同年5月に豊後水道の南方海面で行われた加賀の航空戦技の実況である。

「総飛行機用意」という号令で、60機を超える全機を3台の昇降機を使って格納庫から飛行甲板に上げ、直ちに全機プロペラを回わしはじめる。全員実に熟練したもので、一瞬の無駄もなく、発進開始となると先の機が艦首を離れないうちに、もう次の機が滑走をはじめ、たちまち全機が離艦してしまう。

見ていても、胸のすくような勇壮な有様である。その頃の飛行機はまだ艦上機はすべて複葉機で、手前は90式3号艦上戦闘機、次は94式艦上爆撃機、後方は89式艦上攻撃機である。発艦にはカタパルトは使わず、着艦制動索は発電制動式の制動装置だった。

その年の末、蒼龍は完成し、翌年は早速艦隊に編入されて活動をはじめた。飛行機の進歩は早く、同艦の設計がはじまった時から完成就役するまでの間でも、搭載機種は4回も変更されたと聞いていたが、翌年の夏に私が蒼龍乗組となっていたときに、搭載機が単葉機に変更されることになって、房総半島の南方の海面で、横須賀から続々と飛んで来て着艦するのを見た記憶がある。

今までにこんな美しい複葉機の写真があっただろうかと思われるような89式艦上攻撃機。尾翼の「ニ」は加賀艦載機を示す(空母の就役順にイ、ロ、ハ、ニと機体につけた)
Beautiful profile of Type 89, the Carrier-based attacker.

Type 89 attacker over the deck of Carrier "Kaga".
発艦していくのか、それともフライパス練習なのか、空母上を低空飛行する89式艦上攻撃機。張布張りの主翼下面の状態がよくわかる。

着艦した89式艦上攻撃機。着艦フックがワイヤに食いこみすぎたためか，水平尾翼を整備兵がおしもどしている

Type 89, the carrier-based attacker, being pushed back to release hook.

Biplane Type-89 about to touch down on the deck of "Kaga".

着艦フックを下げて空母に着艦前の89式艦上攻撃機。今も昔もワイヤーによる安全着艦法は変わらない

出航していく空母・加賀。

The Carrier "Kaga" leaves port for training mission.

右下は練習を終えて帰艦する機を待つ整備兵。風向きを知らせるための煙が艦上を流れている。

Smoke balls lit to indciate wind direction for arriving pilots.

空母・加賀を離艦する，89式艦上攻撃機　後部シートから撮影した，当時のものとしては大変に貴重な写真である。
The attacker, type 89, seen taking off from the deck of "Kaga".

Smoke and directional markers on the bow help pilots and officers.
風向きを知らせるため，煙の流れを中心線より各方向に白線を引いて，パイロットや航海士官に指示して航路を変える。

KAWASAKI TYPE 3 FIGHTER HIEN

三式戦闘機"飛燕"

特攻用に尾翼に菊水と爆弾を書きこんだ三式戦闘機"飛燕"（第22戦隊には三式戦の配属はなく、夜間攻撃用に黒く塗装されているが、機体前半は塗装がハゲているが、後部はまだ真黒である。米軍に引渡[illegible]上げたよう[illegible]である。1945年10月福岡となっているが、その場所は[illegible]空港と思われる）。

Kawasaki Type 3 Fighter "Tony" painted in black for night use. Tail-marking indicates its assignment to the Special Attack Unit.

1974年3月号に一部発表したが、その反対側の写真が入手したので、再度掲載した。これも米軍に引渡しのため、日の丸は消され、尾翼部は3機ぐらいを集めて作ったような機体である。三式戦闘機としての美しい流れるような線が良く出ている写真である。1945年10月17日佐世保に集結した時に撮った物。（下）3枚は、川崎重工が公式発表した記録フィルムから焼付けたもの。

Left page shows Type 3 Fighter "Tony" rebuilt by American Forces.
Three shots below were filmed by Kawasaki during its flight test.

Ki-61.Army code for Kawasaki Type 3, abandoned at Clark Field, Philippines.

Abandoned planes gathered at the Clark Field by American Forces.

Some of these planes were rebuilt and flight-tested by American pilots.

THE ALLIES' A／C CONFISCATED BY GERMAN FORCES

ドイツにろ獲された連合軍機

Finnish "Brewster Buffalo" fighter confiscated by German Forces during WWII. The fighter imported prior to WWII and fought against Russian I-16 effectively.

▲第二次大戦が始まる前に、北欧の小国フィンランドがソ連と戦った時に、フィンランドがアメリカから輸入したブリュスター・バッファロー戦闘機。ソ連のI-16に対しても意外に善戦したという。これはドイツ軍の手に落ちたもの。

▼第二次大戦中、ドイツ空軍が入手した連合軍機は、数も種類もかなり多い。ソ連のヤコブレフYak-3戦闘機。3,000メートル以下の低空ではBF 109をしのぐ好性能を示した。

Aircrafts confiscated by German during WWII varied in its type and number. Russian-made Yak-3 recorded better performance than Bf109 under 3000 meters.

…rash-landed North American P-51D from the 334th Sqd., …th Fighters Group, the 8th Air Force.1944 marking noted.

◀胴体着陸した第8空軍第4戦闘グループ334中隊所属のノースアメリカンP-51D。1944年ころのマーキングである。エンジンがストップして着地したものらしく、曲がっていないプロペラがある。
▲胴体着陸した英空軍のスピットファイアをトラックに積みこむドイツ軍兵士。主翼は付け根から取り外されている。すてきな獲物である。
▼リパブリックP-47Cサンダーボルト戦闘機。ヨーロッパ戦線では、アメリカ第8空軍が同機を多数使用していたから、そのうちの1機であろう。

…erman soldiers loading a RAF Spitfire made crash …nding nearby.

Republic P-47C Thunderbolt fighter. Could be one of 8th AF fighters.

▶捕獲・修復した連合軍機を実戦に使用したのを目撃したという連合軍パイロットは報告している。写真のサンダーボルトにはすでにドイツ空軍標識が描かれている。

The allies pilot reported that some of confiscated aircrafts had been repaired and flown by German pilots in combat zone.

▶北アフリカの砂漠に不時着、ドイツ軍に捕獲された英空軍のカーチスP-40Eキティホーク。アメリカが援英機として多数供給したP-40は、性能的には第二線級で、ドイツ空軍も修復して飛行させるのに余り熱心ではなかった。

RAF's Curtis P-40E Kittyhawk crash-landed on the North African desert.

JUNKERS JU87 DIVE-BOMBER

ユンカース Ju87 シュツーカ

●ルフトバッフェの猛きん（解説・川上しげる）

飛行中のJu87D-7を下面からとらえたところ，主翼端の延長部分，MG151 20mm銃身などに注目されたい．

Junkers Ju87D-7 Dive Bomber up in the European sky. Note its extended wing-tip and MG151 20mm gun.

部隊コードS7tは、St.G.3のもの。機体はJu87D-1。
Ju87D-1 getting ready for taxi off. Bearly noticeable unit code S7 is that of St.G.3.

爆装して基地を出発するJu87D-1。2/St.G.2の所属機だ。
Ju87D-1 fully armored conducts final runup before daylight sortie. It belongs to the 2/St.G.2.

Ju87D-7を斜め側面から。後部機銃の照準リングがはっきり見える貴重な写真。だが，この機体には二連装の 7.9mmMG81Zの姿が見えない。プロペラ・ブレードの形状もよく出ている。

Unusual close-up on Ju87D-7 reveals a couple of sight-rings and shapes of propellers.

エンジンをはずし補機類を整備する。機体はD型である。

With removal of engine a Ju87D-7 is seen carefully maintenanced by mechanics at the Western front.